

3 エアクオリティを保つために

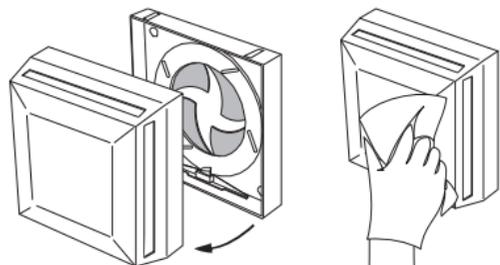
- 換気を十分に行うため室内のドアはできるだけ開け放しておいてください。
- 部屋どうしに温度差があると、冷たい空気が室内を走り結露の原因となります。
- できるだけ全室暖房とし、温度差が生じないようにしてください。開放型ストーブ、ファンヒーターはご使用をひかえてください。結露の原因となります。
- 本システムは24時間連続運転を原則としています。長時間留守にする以外はスイッチを切らないでください。

4 日常の点検およびお手入れ

給排気グリル(お手入れの目安 月1回程度)

給気グリル(パスカル)

- パスカルのカバーは引き出すと図のように外れます。
- 表面の汚れは水又は台所用中性洗剤を浸した布でふき取ったあと、から拭きしてください。(お手入れの目安は3ヶ月に1度程度)
- フィルターの汚れは、中性洗剤を溶かしたぬるま湯で濯ぎ洗いをします。洗った後は充分に乾燥させてから元どおりに取り付けてください。
- フィルターの清掃を怠ると、空気が停滞し結露が発生しやすくなり壁が結露水で汚れることがありますので十分ご注意ください。
- 詳しくはパスカル7取扱説明書をご覧ください。



排気グリル(ブリーズ100)

- 表面のほこりは掃除機で吸い取り、表面の汚れは水又は台所用中性洗剤を浸した布でふき取ったあと、から拭きしてください。(付属の開度ゲージで目盛を確認しておいてください。)

※各パーツのお手入れには中性洗剤以外使用しないでください。
ベンジン、アルコール、シンナー等の溶剤は使用しないでください。



排気口(ブリーズ100)の開度について

室名	ブリーズの開度	流量m ³ /h
(例)キッチン	7.5	20

※排気口(ブリーズ100)の開度は予め設計計算によって定めています。無闇に開度を変えると各部屋の排気バランスが崩れる恐れがありますので開度は変えないでください。

ファン本体(お手入れの目安 1年に1回程度)

メンテナンスには汚れても良い服装で行います。掃除機、手袋、雑巾、脚立や椅子、⊕ドライバー、古新聞紙、歯ブラシなどが必要になりますので、あらかじめ準備しておきましょう。

1  ファン清掃前には必ず切替スイッチをOFFにします。(ランプ点灯)

⚠️ スwitchをOFFにしてから1~2分間はモーターがまだ回転しており、この間の取り外しは大変危険ですから必ず3分間おいてから取り外すようにしてください。

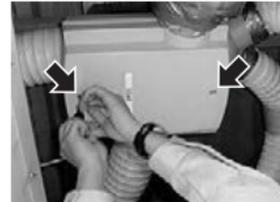
2  次に必ず安全のため電源ブレーカーを切ってください。

分電盤換気項目のブレーカーを操作することで停止できます。

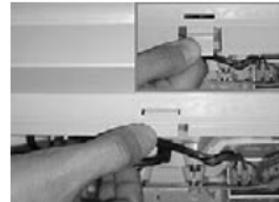
⚠️ 切り替えスイッチのランプが消えた事を確認してください。

3  ファン本体設置の天井点検口を手で支えながら開き、フェース部分が見えるか確認します。

⚠️ 作業中頭上には十分注意してください。作業の際は、対象物を手でおさえてください。

4  ⊕ドライバーで本体前面の2本のビスを回し、フェースカバーを外します。(ビスは無くさないようにしてください。)

⚠️ ファンユニット掃除の際、けがをすおそれがありますので、ゴム手袋を使用してください。

5  モーター付の配電盤が現れますので上下のツメを引っ張り、「カチッ」と音がしたらモーターをゆっくり下げて取り出します。

⚠️ モーターの羽等破損しないよう慎重に行ってください。ツメが固い場合、⊕ドライバーで優しく差し込みロックを外してください。強く差し込むとツメが割れる恐れがあります。

6  さかさまの場合、重みでモーターが落ちてこないように気をつけてください。モーターは手を添えて外し、ゆっくりお掃除しやすい場所へそのまま移動します。

7  手を切らないように手袋を着用してから、ファンの羽根のほこりをブラシ等できれいに落します。清掃には毛が長目のブラシ、歯ブラシや、掃除機の吸い込み口などを利用してほこりを取ると簡単です。

8  汚れのひどい場合は、ブラシや布に中性洗剤を含ませ羽根の汚れを落としてください。きれいになったら逆の手順で戻します。

⚠️ モーターに直接洗剤等を吹きかけることは危険ですのでお止めください。